

資料—3

プロジェクトの体系化・内容（案）

1. プロジェクトの体系化
2. プロジェクトの整理

平成 25 年 3 月 13 日

尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会事務局

1. プロジェクトの体系化

第2回策定委員会 でいただいた意見等を踏まえた修正案を下記に示します。

基本方針	大分類	プロジェクトの分類（26分類）	プロジェクト（55プロジェクト）
水源地域を結び、拓く	I 人材の活用	(1) 人材の活用	(1)-1 人材の発掘・活用 (1)-2 接客技術（おもてなしの心）の向上 (1)-3 教育機関（大学等）との連携
	II 組織の整備	(2) 組織の整備	(2)-1 関連事業・組織との連携 (2)-2 リーダーの育成
	III 企業との連携	(3) 企業との連携	(3)-1 企業との連携（CSR 活動）
	IV 斐伊川流域圏の連携	(4) 斐伊川流域圏の連携	(4)-1 下流域からの支援 (4)-2 上下流交流 (4)-3 流域圏交流
	V 情報発信	(5) 情報発信	(5)-1 情報発信の促進（ホームページ、カレンダー、案内標識） (5)-2 フィルム・コミッションの推進
流域圏の恵みの源を守り、育む	VI 環境の保全	(6) 森林の保全・維持管理活動	(6)-1 森林の整備・管理 (6)-2 ボランティア活動の実施
		(7) 河川の水質の保全	(7)-1 水質の保全 (7)-2 ビオトープの整備
		(8) 生物の生息環境の保全	(8)-1 生息環境の保全（動物、植物） (8)-2 外来種、害獣、害鳥対策
		(9) 環境学習会等の開催	(9)-1 環境学習会の開催（森林、水質・水生生物、ホタル） (9)-2 体験プログラムの企画・開催（間伐・農業体験）
	VII 景観保全・整備	(10) ダム湖周辺や水辺の景観の保全・整備	(10)-1 ビューポイントの発掘・活用（ワカサギ、のぼり） (10)-2 クズやカズラ等の対策・駆除、竹ボットの管理 (10)-3 ダム湖周辺の植栽（サクラ、ドウダンツツジ）
		(11) 農村や周辺の景観の保全・改善	(11)-1 農地保全の仕組みづくり (11)-2 農村景観の向上（ミックスフラワー）
さくらおろちの魅力を磨き、活かす	VIII 自然環境の活用	(12) 森林の保全・活用	(12)-1 森林の利用促進（森林セラピー・森の保育園）
	IX ダム周辺の既存施設の活用	(13) ダム本体の活用	(13)-1 尾原ダムの魅力発掘（ライトアップ、クレスト放流等） (13)-2 日本一プロジェクト
		(14) サイクリング施設の活用	(14)-1 サイクリングコースの活用・PR（認定コース、ショートコース） (14)-2 レンタサイクルの実施 (14)-3 サイクリングコースの改善
		(15) さくらおろち湖の活用	(15)-1 湖面利用の活性化（水陸両用バス、シーカヤック、巡視体験） (15)-2 さくらおろち湖の魅力発信 (15)-3 釣り利用（PR・大会・施設整備）
		(16) 既存施設等の活用	(16)-1 芝生広場（多目的広場）の利用促進 (16)-2 農村研究施設の利用促進 (16)-3 ホースセラピーの利用促進 (16)-4 街道・登山道の活用（殿様街道、岩伏山） (16)-5 利用ルールの策定・周知（湖面利用の手引き等） (16)-6 新たな活用策の検討（星空観望会、ドックラン等） (16)-7 イベントの企画・立案（交流、花火等）
	X 歴史・文化の継承	(17) 神話の継承・活用	(17)-1 出雲神話の活用・PR（マップ作り、関連ツアー）
		(18) 郷土料理の継承・活用	(18)-1 郷土料理の継承・活用（焼豆腐、イノシシ料理等） (18)-2 モニターツアーの開催
		(19) 地域文化の継承・活用	(19)-1 古民家の活用
	XI 新たな魅力・資源の発掘	(20) 新たな魅力・資源の発掘・活用	(20)-1 温泉の活用（スタンプラリー）
		(21) 「地域全体」の発掘・活用	(21)-1 観光資源の再整理 (21)-2 地域体感ツアーの開催
		(22) 漁業資源の育成と活用	(22)-1 漁業資源の創出（ワカサギの放流）
		(23) 特産品の開発・販売	(23)-1 特産品の開発・販売促進
	XII 交流イベント（既存）の開催	(24) 湖面イベントの開催	(24)-1 ボート大会の活性化
		(25) 湖畔イベントの開催	(25)-1 音楽イベントの開催 (25)-2 サイクリングイベントの開催 (25)-3 さくらおろち湖祭りの開催
		(26) 周辺イベントの開催・継続	(26)-1 そばうち交流会の開催 (26)-2 トレイルランニングの開催

2. プロジェクトの整理

第2回策定委員会でもいただいた意見等を踏まえた修正案を下記に示します。

基本方針1：水源地域を結び、拓く

水源地域の多様な関係者の結びつきによって取組の体制を充実し、地域の自立的・持続的な発展を拓いていきます。

大分類Ⅰ 人材の活用

プロジェクトの分類(1) 人材の活用

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(1)-1 人材の発掘・活用	短期 (先行)	人材の活用 人材の育成	水源地域	- 水源地域の活性化に向けた技術や、知識、知恵を持った人を発掘します。 - 発掘した人材を有効活用するための人材バンク（データベース）の構築を検討します。
(1)-2 接客技術（おもてなしの心）の向上	後期	接客技術の向上	水源地域	接客セミナーや研修等を実施することにより観光客への接客マナーの向上に努め、観光の担い手を育成します。
(1)-3 教育機関（大学等）との連携	短期 (先行)	教育機関との連携 人材の確保	島根大学 島根県立大学	- 地元の大学や研究機関等と連携して、水源地域の活性化に関するプログラムの開発や助言、各種イベントへの学生の呼び込みなどを行います。 - 学生と地域のニーズをマッチングさせるシステム作りを検討し、学生が地域づくりに参加することで学ぶというような学修の環境を整備します。

大分類Ⅱ 組織の整備

プロジェクトの分類(2) 組織の整備

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(2)-1 関連事業・組織との連携	後期	活動の継続 周辺地域との連携	水源地域	- 水源地域内で個々に活動している団体の連携を図ります。 - 下流域や広域で活動している活動団体との連携の促進、志津見ダム水源地域ビジョンに関連する各種団体との連携も促進します。
(2)-2 リーダーの育成	短期 (先行)	リーダーの育成 活動の継続	水源地域	- 水源地域ビジョンで検討された活動を継続して推進していくために、活動のリーダーを育成する仕組みづくりを推進します。 【参考取組（例）】 リーダー研修等の開催

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点

大分類Ⅲ企業との連携

プロジェクトの分類(3)企業との連携

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(3)-1 企業との連携 (CSR活動)	中期	活動の継続	水源地域 斐伊川流域	- 水源地域の活性化を流域として継続していくために、流域内の企業が実施する CSR 活動（企業の社会的責任）と連携し、水源林の間伐などを平成 24 年度から「命の絆プロジェクト」が実施します。 【参考取組（例）】 「命の絆づくり事業」において松江市と出雲市の民間6社が、尾原ダム周辺の除草作業を実施しています。（平成 24 年 9 月）

大分類Ⅳ斐伊川流域圏の連携

プロジェクトの分類(4)斐伊川流域圏の連携

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(4)-1 下流域からの支援	中期	下流域との連携	斐伊川下流域	- 水源地域の環境を保全していくために、下流域からの支援が獲得できるような仕組みを検討します。 【参考取組（例）】 - 下流域の市民がスポンサーになり、水源地域の農地を保全していく仕組みづくり
(4)-2 上下流交流	短期 (先行)	下流域との連携	水源地域 斐伊川下流域	- 上下流交流を通じた水源地域の活性化を推進していくために、尾原ダム周辺で整備されたスポーツ施設を活用したスポーツ交流や、水源林を活用した「森の幼稚園」活動などの実施を検討します。 - イベントや交流ツアーなど様々な方法で上下流交流を活発化します。
(4)-3 流域圏交流	短期 (先行)	流域圏の連携	斐伊川流域圏	- 尾原ダムの魅力を活かし、流域圏の連携・発展を図るために、流域内で実施されている活動や団体との連携を深化させていきます。 - 志津見ダム水源地域で活動されている団体と連携した情報発信や連携イベントの開催などを検討します。 - 広域的に連携した観光ルートを創造し、広く PR します。

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点

大分類Ⅴ情報発信

プロジェクトの分類(5)情報発信

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(5)-1 情報発信の促進 (ホームページ、 カレンダー、案内 標識)	短期 (先行)	水源地域の 魅力の発信	水源地域	• 水源地域の情報を発信するホームページに水源地域の自然環境や魅力、イベント情報、学習情報、特産品情報、活動情報などを発信します。 • 各種イベントや地域マスメディア（ケーブルテレビ・新聞社等）、各種情報誌に水源地域に関する情報を積極的に発信します。 • 尾原ダム周辺の案内標識を整備しています。
(5)-2 フィルム・コミッションの推進	中期	水源地域の 魅力の発信 新しい魅力 の創造	水源地域	• 水源地域の魅力を広く発信していくために、尾原ダムや周辺施設などを活用した映画やドラマなどを誘致するフィルム・コミッションを推進します。

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点

基本方針2：流域圏の恵みの源を守り、育む

斐伊川流域圏の暮らしや産業の恵みの源である水源地域の森や水などの自然環境を守り、育んでいきます。

大分類Ⅶ環境の保全

プロジェクトの分類(6)森林の保全・維持管理活動

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(6)-1 森林の整備・管理	短期 (先行)	森林の保全 上流部の森林の整備	水源地域の森林	- 斐伊川や流域の河川の水質を保全するために、上流部の森林で広葉樹の植林や森林の計画的な間伐などの維持管理を積極的に行います。 - 雲南市の「うんなん森林バイオマス活用システム」や奥出雲町の「バイオマスタウン構想」と連携し、竹林や林地残材のチップ化を推進します。
(6)-2 ボランティア活動の実施	中期	森林ボランティアによる森林の保全	水源地域の森林	- 下流域の住民や小学生の森林ボランティアによる森林の草刈りや間伐、里山の手入れなど、森林の保全の仕組みを検討します。 - 降雨後にさくらおろち湖へ流入する流木をボランティアが回収する仕組みを検討します。 - 学生によるボランティア活動を実施しやすくするために、「ビビットカード※」制度の認定などを目指します。 ※ビビットカード：ボランティア活動やサークル活動などの正課以外（単位認定されるものを除く）の諸活動に対して、ポイントが与えられ、ポイントに応じて特典が受けられるカード

プロジェクトの分類(7)河川の水質の保全

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(7)-1 水質の保全	後期	水質の保全	各家庭	- 水質の保全を図るため、家庭から出る廃食油の回収・リサイクルなどを推進します。 【参考取組（例）】 - 他地域で実践されている活動を参考とした各家庭での水質の保全
(7)-2 ビオトープの整備	中期	水質浄化 環境保護の啓発活動	さくらおろち湖周辺	さくらおろち湖に流入する水質の改善や、環境保全に対する地域住民の意識向上のために、さくらおろち湖周辺にビオトープを整備します。

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点

プロジェクトの分類(8)生物の生息環境の保全

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(8)-1 生息環境の保全 (動物、植物)	短期 (先行)	生息環境の 保全	ダム周辺の 河川（三沢 川など） ダム周辺地 域	・ホタルの生息環境を保全するため、三沢川の清掃活動を継続します。 ・ホタルの餌の減少を防ぐため、カワニナの放流活動を実施します。 ・河川環境の保全のシンボルである、河岸のキシツツジなどの保全活動を実施します。 ・人と動物が共生するための安全対策の検討を推進します。
(8)-2 外来種、害獣、害鳥対策	短期 (先行)	外来種対策 害獣、害鳥対策	さくらおろち湖	・ブラックバスを始めとした外来魚の放流が法律により禁止されていることを周知します。 ・外来種を捕獲するための仕組みづくりを検討します。 ・森林や漁業資源に被害をもたらす害獣（イノシシなど）や害鳥（カワウなど）の対策を試行します。

プロジェクトの分類(9)環境学習会等の開催

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(9)-1 環境学習会の開催（森林、水質・水生生物、ホタル）	短期 (先行)	自然環境への意識啓発 環境学習の場の提供	ダム周辺の 河川 さくらおろち湖 ダム下流部 水源地域の 森林	・さくらおろち湖や周辺の河川、森林への関心を促すために、「環境学習会」を開催します。 ・子供たちの夏休みの研究や自然観察会のフィールドとして活用します。 ・さくらおろち湖周辺に生息するホタルの観察ポイントの整備や観察会の開催、ホタル（カワニナ）の生息環境と水質の関係の学習会の開催などを実施します。
(9)-2 体験プログラムの企画・開催（間伐・農業体験）	短期 (先行)	森林や農地の保全への意識啓発 体験学習の場の提供	水源地域の 森林 水源地域の 農地	・水源地域の森林の保全への意識を啓発するために、間伐や、材木を活用したものづくりの体験プログラムを企画・実施します。 ・合宿形式の自然体験ツアーを企画・実施します。 ・水源地域の休耕田等を活用した農業体験ツアーを実施します。 ・既に実施している「柿採りと干し柿づくり」ツアーを推進します。

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点

大分類Ⅶ景観保全・整備

プロジェクトの分類(10)ダム湖周辺や水辺の景観の保全・整備

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(10)-1 ビューポイント の発掘・活用（フォ トポスト、おろちの ぼり）	短期 （先行）	ダム周辺の 景観向上 ダム湖の魅 力発掘	さくらおろ ち湖 さくらおろ ち湖周辺	・さくらおろち湖周辺の良好な景観を発信し、魅力を向上させるために、さくらおろち湖周辺のビューポイント・写真撮影スポットを発掘します。 ・ビューポイントを設置します。 ・季節に応じて見ごろを迎える紅葉やサクラ、新緑などを活かした写真撮影会の開催や湖畔や橋に鯉のぼり（オロチのぼり）を掲げるなど、さくらおろち湖の魅力を発信します。
(10)-2 クズやカズラ等 の対策・駆除、竹 ポットの管理	短期 （先行）	ダム周辺の 景観向上	さくらおろ ち湖周辺	・さくらおろち湖周辺の景観を向上させるために、周辺の森林や斜面に繁茂するクズやカズラ等の駆除を推進します。 ・クズやカズラ等の対策にあたっては、単純にクズやカズラ等を伐採するだけでなく、クズ等の有効活用策（根のレシビづくり、編みかごづくりなど）を検討し、地域住民と楽しみながら対策出来る様な仕組みを構築します。 ・根本的な対策を検討していくために、クズ除去等の対策部会の設置や専門家への聞き取り調査などをあわせて実施します。

プロジェクトの分類(11)農村や周辺の景観の保全・改善

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(11)-1 農地保全の仕組 みづくり	中期	水源地域の 景観向上 農地の保全 耕作放棄地 対策	水源地域の 農地	・水源地域の農村景観を保全していくために、維持管理が困難な農地を協力して耕作していく仕組みを構築します。 ・仕組みの構築にあたっては、流域内の大学生等が農地保全や草刈りのボランティアとして積極的に連携できるように呼びかけます。
(11)-2 農村景観の向上 （ミックスフラ ワー）	短期	ミックスフ ラワー等の 栽培による 水源地域の 景観向上 耕作放棄地 対策	水源地域の 農地	・水源地域内の耕作放棄地を減少させ、農村景観を改善していくために、ミックスフラワー等を栽培します。

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点

基本方針3：さくらおろちの魅力を磨き、活かす

さくらおろち湖と水源地域が有する歴史、文化、自然などの資源を魅力として磨き、活かしていきます。

大分類Ⅷ自然環境の活用

プロジェクトの分類(12)森林の保全・活用

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(12)-1 森林の利用促進 (森林セラピー・森の幼稚園)	短期 (先行)	森林の利活用	水源地域の森林	- 水源地域の森林環境を、心身の健康維持・増進、疾病の予防を目指す「森林セラピー」の場として活用します。さらに、森の香りや空気の清浄さ、美しい色彩や景観などが人の生理に及ぼす効果について、医学的に検証された「森林セラピー基地」となるよう水源林を整備します。 - 自然環境の中での幼児教育や、幼児を対象とした自然体験活動などを実施する「森の幼稚園」を推進します。

大分類Ⅸダム周辺の既存施設の活用

プロジェクトの分類(13)ダム本体の活用

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(13)-1 尾原ダムの魅力発掘 (ライトアップ、クレスト放流等)	短期 (先行)	尾原ダムの魅力発掘 尾原ダムの魅力発信	尾原ダム (本体・堤頂道路など)	- 尾原ダムの魅力を発掘し、積極的に発信します。 - 尾原ダムの魅力を向上させるために、ライトアップやイルミネーション、クレスト放流の実施などを検討します。 - 各種イベントに合わせて実施しているダム施設の見学ツアーを積極的に開催します。 - 写生大会など、ダム本体の学習教材としての活用やビューポイントとの連携、ダムカードの活用、情報端末の活用など、尾原ダムが有する資源・特徴を発掘・発信します。 - ダムの活用について様々な可能性（ダムのビューポイント探し、フォトコンテスト、ダム本体に絵を描く企画、無料オートシアター、ロッククライミングなど）を追求します。
(13)-2 日本一プロジェクト	短期 (先行)	尾原ダムの魅力発掘 尾原ダムの魅力発信	尾原ダム (本体・堤頂道路など)	尾原ダムの魅力を広く認知してもらうために、尾原ダム本体や堤頂道路などを活用した「日本一」を企画・実施します。

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点

プロジェクトの分類(14)サイクリング施設の活用

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(14)-1 サイクリングコースの活用・PR (認定コース、ショートコース)	短期 (先行)	サイクリングコースの魅力発信 サイクリングコースの活用	サイクリングコース (認定コース、ショートコース)	・サイクリングコースの魅力を広く発信するために、「観光庁ランナーズインフォメーション研究所」による国内初の認定コースとして選出されたことを発信します。 ・平坦なコースが続く 4.5km のコースは一般の方にも楽しんでもらえるコースであることも発信します。 ・サイクリングコースの多様な活用に向け、マラソンや駅伝などの他の利用方法を検討します。
(14)-2 レンタサイクルの実施	短期 (先行)	サイクリングコースの活用	道の駅おろちの里	・一般の方にサイクリングコースを楽しんでもらうために、道の駅「おろちの里」を拠点としてレンタサイクルを実施します。 【参考取組（例）】 ・道の駅「おろちの里」、佐白温泉・長者の湯、奥出雲町サイクリングターミナルを活用したレンタサイクル
(14)-3 サイクリングコースの改善	後期	サイクリングコースの魅力向上	サイクリングコース	・サイクリングコースの魅力を向上させるために、サイクリングコースへの藤棚を設置し、夏場の日差しを軽減させるなどの改善を図ります。

プロジェクトの分類(15)さくらおろち湖の活用

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(15)-1 湖面利用の活性化（水陸両用バス、シーカヤック、巡視体験）	短期 (先行)	さくらおろち湖の魅力向上	さくらおろち湖	・さくらおろち湖の魅力を向上させるために、さくらおろち湖での湖面利用を活性化します。 【参考取組（例）】 ・水陸両用バスによる湖上観光、シーカヤックやカヌー、ヨット等を利用したイベントの開催、湖面いかだレースの開催、屋形船の導入 ・サイクリングコースと連携して、トライアスロン大会の実施の可能性についても検討します。

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(15)-2 さくらおろち湖の魅力発信	短期	さくらおろち湖の魅力発信	さくらおろち湖	・様々な角度からさくらおろち湖の魅力を発信 する ために、ダム湖の形状クイズなどを実施 します 。
(15)-3 釣り利用（PR・大会・施設整備）	短期 （先行）	さくらおろち湖の魅力発掘 釣り利用の活発化	さくらおろち湖	・さくらおろち湖の新たな利用者を獲得するために、さくらおろち湖での釣り大会の実施の可能性を検討します。 ・関連団体等との調整を実施した上で、釣りスポットの整備など、ダム湖と川に親しめる取組を実施し、さくらおろち湖の魅力を向上させます。 ・道の駅「おろちの里」での鑑札の販売など、簡易に釣り利用を図ることが出来る仕組みを検討します。

プロジェクトの分類(16)既存施設等の活用

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(16)-1 芝生広場（ 多目的広場 ）の利用促進	短期 （先行）	施設の有効活用	芝生広場 （ 多目的広場 ）	・「地域に開かれたダム整備計画」に基づき整備された芝生広場（多目的広場）を大人から子供までが利活用できるように検討します。 【参考取組（例）】 ・土曜・日曜・祝日における施設の開放
(16)-2 農村研究施設の利用促進	短期 （先行）	施設の有効活用	農村研究施設	・「地域に開かれたダム整備計画」に基づき整備された農村研究施設を有効活用するために、併設されている宿泊施設での体験学習会や小中学生を対象とした合宿研修の利用などをPRします。 ・広大な農地を活用した「かぼちゃの吊り下げ栽培」の企画などを検討します。
(16)-3 ホースセラピーの利用促進	短期 （先行）	施設の有効活用	ホースセラピー	・「地域に開かれたダム整備計画」に基づき整備しているホースセラピーを有効活用し、心の癒し企画を検討します。 ・農村研究施設や周辺の農地と連携した体験プログラムの企画などを検討します。

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(16)-4 街道・登山道の活用（殿様街道、岩伏山）	短期 （先行）	施設の有効活用	岩伏山登山道 殿様街道	・「地域に開かれたダム整備計画」に基づき整備された岩伏山の登山道を有効活用するために、小中学生（スポーツ少年団）による登山企画などを実施します。 ・トレイルランニングのコースとして整備された殿様街道の保全活動やイベントの企画などを実施します。
(16)-5 利用ルールの策定・周知（湖面利用の手引き等）	短期 （先行）	施設の適正利用	既存施設	・水源地域と他地域との交流促進による水源地域の活性化、公共施設の適正な管理を行うために、「さくらおろち湖周辺及び湖面利用に関する手引き」を充実し、適正に運用します。 ・周辺の施設を利用する際の手続きの簡素化や窓口の一元化の可能性も模索します。
(16)-6 新たな活用策の検討（星空観察会、ドックラン等）	中期	施設の魅力向上	道の駅おろちの里 尾白広場 ホースセラピー 自転車競技施設 ボート競技施設	・「地域に開かれたダム整備計画」に基づき整備された様々な施設の魅力を向上させるために、施設を活用した活性化策を検討します。 【参考取組（例）】 ・ボート競技施設周辺でのオートキャンプ場の整備、愛犬家を対象とした「ドックラン」施設の整備、水源地域の暗さを活かした星空観察会の開催
(16)-7 イベントの企画・立案（交流、花火等）	短期 （先行）	水源地域の魅力向上 新たな観光客の獲得	さくらおろち湖 さくらおろち湖周辺 尾原ダム（堤頂道路） さくらおろち湖に架かる橋	・水源地域の魅力を向上させるために既存施設を活用し、尾原ダム（さくらおろち湖）を念頭においたイベントの企画・立案を図ります。 ・大音量を流すことができる水源地域の立地特性を活かした音楽イベントやダム湖での花火大会の開催の可能性を検討します。 ・堤頂道路の直線を活かしたイベントやさくらおろち湖とサイクリングコースを活かしたトライアスロン大会の実施、関連団体が連携・協働したイベントの開催なども模索します。 ・新たなイベントとして様々な可能性（ボウリング大会や綱引き大会、障害物競走、ペットボトルロケット大会、遠投大会、雪合戦、バンジージャンプなど）を検討します。

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点

大分類Ⅹ歴史・文化の継承

プロジェクトの分類(17)神話の継承・活用

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(17)-1 出雲神話の活用・PR（マップ作り、関連ツアー）	短期（先行）	神話の継承・活用 神話の発掘	出雲神話にゆかりのある地域	・水源地域に伝わる出雲神話を掘り起こし、それらの伝承地（岩伏山頂上、長者屋敷、天ヶ淵など）を巡る着地型観光ツアーを企画します。着地型観光ツアーの企画にあたっては、出雲神話と地域の風土、産業との関連など、水源地域全体の過去、現在、未来を把握できる内容になるよう努めます。 ・地域内で実践されている出雲神話に関する活動を支援するとともに、活動団体のメンバーを講師に地域住民を対象とした学習会の開催やマップや読み物の作成などにより、地域に伝わる貴重な歴史や文化を継承します。

プロジェクトの分類(18)郷土料理の継承・活用

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(18)-1 郷土料理の継承・活用（焼豆腐、イノシシ料理等）	短期（先行）	郷土料理の継承・活用	水源地域	・地域に伝承されている「食」（焼豆腐、笹巻き、イノシシ料理など）を積極的に掘り起こし、地域住民及び流域の住民に伝承していくための講座を開催します。 ・宿泊と料理を結びつけたオーベルジュを活用します。
(18)-2 モニターツアーの開催	短期（先行）	水源地域の魅力の発信	水源地域	・現在実施している郷土料理を楽しむモニターツアーを継続・拡大させ、郷土料理を通じた水源地域の魅力を発信します。

プロジェクトの分類(19)地域文化の継承・活用

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(19)-1 古民家の活用	短期（先行）	地域文化の継承・活用	みざわの館	・水源地域の地域文化を継承・活用するために移築された「みざわの館」を観光拠点の一つとして積極的に活用します。

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点

大分類ⅩⅠ 新たな魅力・資源の発掘

プロジェクトの分類(20) 新たな魅力・資源の発掘・活用

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(20)-1 温泉の活用（スタンプラリー）	短期（先行）	施設間の連携 施設の活用	長者の湯	- 水源地域周辺に立地する温泉施設間の連携を促進するために、温泉スタンプラリーを企画・実施します。 【参考取組（例）】 - うんなん湯たんぽラリー

プロジェクトの分類(21) 「地域全体」の発掘・活用

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(21)-1 観光資源の再整理	短期（先行）	地域資源の整理 地域の魅力の発掘	水源地域	- 水源地域として、観光の拠点として発信する施設の選定を行います。 - 資源の再整理にあたっては、斐伊川の歴史とヤマタノオロチの伝承を流域全体で繋ぐなど、自然とその背景をストーリーで繋ぎ、地域全体として魅力を発信します。
(21)-2 地域体感ツアーの開催	短期（先行）	新しい魅力の発信	水源地域	- 水源地域の新しい魅力を広く発信するために、地域体感ツアーを企画・開催します。 - 都心部の住民が珍しく、体験したいと感じる雪かきなどの雪体験ツアーの開催などを検討します。 - 地域体感ツアーの開催にあたっては、水源地域の魅力の一つである温泉や宿泊施設などとの連携も模索します。 - ツアーエージェントを対象としたツアー企画を実施し、水源地域の魅力を活用したツアーの造成を依頼します。

プロジェクトの分類(22) 漁業資源の育成と活用

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(22)-1 漁業資源の創出（ワカサギの放流）	短期（先行）	新しい地域資源の獲得	さくらおろち湖	- 新しい地域資源としてさくらおろち湖へのワカサギの放流を継続します。 - 放流したワカサギは、漁業資源としてだけでなく、冬季の観光資源としての活用も模索します。

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点

プロジェクトの分類(23)特産品の開発・販売

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(23)-1 特産品の開発・販売促進	短期 (先行)	地 域 産 業 の 振 興 地 域 の 魅 力 の 発 掘 ・ 発 信	水源地域	・水源地域に豊富な湧水や豊かな森林から生産される木材資源、新鮮で高品質な農作物、さくらおろち湖を特色づける特産品、出雲神話に関連する商品など、水源地域ならではの素材を用いた個性ある商品の開発を行います(※)。 ※具体的な商品：ブラックバスや、川魚、食用ほおずき「おろちの真珠」、ヤーコン、コリンキー、サラダ用力ボチャ、イノシシ肉、湧水・名水など ・開発した特産品を「水源地域ブランド」として認定し、全国へ発信・販売を行うことにより資源地域の認知度を向上させます。 ・開発した特産品の販売促進を図るため、出雲神話に由来するネーミングの設定などを検討します。

大分類ⅩⅡ交流イベント（既存）の開催

プロジェクトの分類(24)湖面イベントの開催

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(24)-1 ボート大会の活発化	短期 (先行)	さくらおろち湖・ボート競技施設の活用 賑わいの創出	さくらおろち湖	・さくらおろち湖に完成した認定コースを活用したレガッタ大会やボート競技大会を誘致します。 ・現在斐伊川で開催されている子供向けのボート教室のさくらおろち湖での実施や流域住民を対象とした体験教室などを開催し、ボートを通じた水源地域の認知度の向上を目指します。

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点

プロジェクトの分類(25)湖畔イベントの開催

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(25)-1 音楽イベントの開催	短期 (先行)	賑わいの創出 観光客の獲得	芝生広場	水源地域の賑わい創出、及び若者が参加できるイベントを開催するために、平成24年に実施された音楽イベント（幸雲南 DAY ROCK FESTIVAL）を継続して実施します。
(25)-2 サイクリングイベントの開催	短期 (先行)	自転車競技施設の活用 賑わいの創出	自転車競技施設	- 既に実施されているサイクリング大会や紅葉サイクリングを継続・発展させます。 - MTB や BMX 大会の実施や子供サイクリング教室なども企画し、サイクリングを通した上下流交流や地域活性化を目指します。
(25)-3 さくらおろち湖祭りの開催	短期 (先行)	賑わいの創出 観光客の獲得	ボート競技施設 尾原ダム さくらおろち湖	「さくらおろち湖祭り」を継続・発展させることで、水源地域への観光客を呼び込み、水源地域の活性化につなげます。 「さくらおろち湖祭り」については、NPO法人などの関係諸団体と連携し、ダム湖面の活用の充実を検討します。

プロジェクトの分類(26)周辺イベントの開催・継続

プロジェクト	実施時期	目的	場所	取組内容
(26)-1 そばうち交流会の開催	短期 (先行)	上下流交流	水源地域	水源地域の特産品を通した上下流交流を実施するために、下流域の住民との「そばうち交流会」を継続して実施します。
(26)-2 トレイルランニングの開催	短期 (先行)	地域資源の活用 上下流交流	殿様街道	水源地域の資源を活用した上下流交流を実施するために、さくらおろち湖から出雲神話の舞台であり、松江藩主が通った殿様街道を駆け巡るトレイルランニング大会を継続して実施します。

赤字：第2回策定委員会での意見を踏まえた変更点